



# 指導室 だより

第 78 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室  
〒183-8703 府中市宮西町2-24  
電話 042-335-4063

## 平成21年度府中市教育委員会児童・生徒表彰式 日ごろの努力の成果が認められ表彰される

府中市教育委員会主催平成21年度児童・生徒表彰式が3月3日、府中市立教育センターにおいて、久芳美恵子教育委員会委員長を始め、市立小・中学校長、保護者等多数出席のもと開催された。

今回は、個人13人と24団体が表彰を受けた。

始めに、久芳美恵子教育委員会委員長よりあいさつがあった。「皆さん、この度は受賞、誠にありがとうございます。」

府中市教育委員会では、毎年市内の小・中学校の児童・生徒の皆さんの中で、他のお手本となるような立派な活動をされた方やいろいろな分野で良い成績を挙げた方を表彰することになっています。

今回、受賞される皆さんは、鼓笛隊や和太鼓、琴、合唱、吹奏楽、音楽クラブなどの音楽活動、また、水泳、陸上、タグラグビーなどのスポーツ活動、さらに、奉仕活動及び福祉活動などの分野で活躍され、それぞれすばらしい活動や成果を収められた方々です。

今まで一生懸命、勉強やスポーツ、学校外での奉仕活動などで



頑張ってこられたことが、本日の受賞に結びついたと思います。そして、今日、表彰を受ける児童・生徒の皆さんは、多くの方々の指導や見守りがあって立派な成績を収められたことについて、「ありがとうございます」という感謝の気持ちを忘れないでいただきたいと思えます。皆さんは、これから進学や進級をされるわけですが、今回の受賞を励みとして、ますます明るく、健やかに立派に成長されることを願っています。」

### ○受賞者及び団体

#### ◆府中第一小学校

☆第46代わかば鼓笛隊

日ごろから熱心に鼓笛隊の練習に励み、市の行事などでその成果を披露して多くの人びとを力づけ喜ばれた。

☆海上芽来さん

日ごろから陸上競技の練習に励み、第25回全国小学生陸上競技交流大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

#### ◆府中第二小学校

☆和太鼓クラブ

日ごろから熱心に和太鼓の練習に励み、市の行事などでその成果を披露して多くの人びとを力づけ喜ばれた。

☆ブラスバンド部

日ごろから熱心にブラスバンドの練習に励み、市の行事などでその成果を披露して多くの人びとを力づけ喜ばれた。

#### ◆府中第三小学校

☆合唱団

日ごろから熱心に合唱の練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露して多くの人びとを力づけ喜ばれた。

#### ◆府中第四小学校

☆ハーモニープリーズ

ジャズオーケストラ

日ごろから熱心にバンドの練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露して多

くの人びとを力づけ喜ばれた。

#### ◆府中第五小学校

☆音楽クラブ

日ごろから熱心に音楽の練習に励み、市の行事などでその成果を披露して多くの人びとを力づけ喜ばれた。

#### ◆府中第七小学校

☆岩淵礼実さん

☆高橋優花さん

日ごろから陸上競技の練習に励み、第25回全国小学生陸上競技交流大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

☆府中太鼓クラブ

日ごろから熱心に武蔵国府太鼓の練習に励み、地域の行事でその成果を披露して多くの人びとを力づけ喜ばれた。

☆掲示・美化委員会

全校児童に呼びかけてエコキャップ運動の輪を広げ、継続的に取り組むことで児童のリサイクルへの意識の向上に貢献した。

#### ◆府中第九小学校

☆代表委員会

アルミ缶やプラトップの回収を全校に呼びかけ、車いすの寄付を目標に継続的に取り組むことにより児童の環境問題への意識や福祉精神の醸成に貢献した。



◆府中第十小学校

☆和太鼓クラブ

日ごろから熱心に和太鼓の練習に励み、市の行事などでその成果を披露して多くの人びとを力づけ喜ばれた。

◆武蔵台小学校

☆音楽クラブ

日ごろから熱心に音楽の練習に励み、福祉施設の訪問などでその成果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

☆児童会代表委員会

全校児童に呼びかけ地域の方々へ感謝の手紙と花の苗を配る活動に取り組み、地域と学校の良好な関係づくりに貢献した。

◆新町小学校

☆合唱団

日ごろから熱心に合唱の練習に励み、市の行事などでその成

果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

◆本宿小学校

☆金管バンド

日ごろから熱心に金管バンドの練習に励み、福祉施設の訪問でその成果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

☆合唱団

日ごろから熱心に合唱の練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

◆白糸台小学校

☆タグラグビーチーム

☆白フェニックス

日ごろからタグラグビーの練習に励み、全国大会の予選で優秀な成績を収めるなど地域に根ざしたスポーツの振興に寄与し十分にその力を発揮した。

☆和太鼓クラブ

日ごろから熱心に武蔵国府太鼓の練習に励み、市の行事などでその成果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

◆若松小学校

☆おこと同好会

日ごろから熱心に琴の練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

☆和太鼓クラブ

日ごろから熱心に武蔵国府太鼓の練習に励み、市の行事などでその成果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

☆よさこい同好会

日ごろから熱心によさこいの練習に励み、地域の行事でその成果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

◆小柳小学校

☆ブラスバンド

日ごろから熱心にブラスバンドの練習に励み、地域の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

☆小林結さん

日ごろから陸上競技の練習に励み、第25回全国小学生陸上競技交流大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

◆南白糸台小学校

☆ウィンドアンサンブル

日ごろから熱心に吹奏楽の練習に励み、市の行事や福祉施設の訪問でその成果を披露して多くの人が力を力づけ喜ばれた。

◆日新小学校

☆六年生児童

日ごろから熱心に菊の鉢作りに取り組み、市の行事に出品す

るとともに菊の花を福祉施設に贈り人びとを力づけ喜ばれた。

◆府中第二中学校

☆渡邊ひかりさん

生徒会会長として日ごろから生徒会活動の充実に熱心に取り組む、快適な学校の環境づくりや地域交流の活性化に尽力した。

☆小泉満里奈さん

生徒会役員として日ごろから生徒会活動の充実に熱心に取り組む、快適な学校の環境づくりや地域交流の活性化に尽力した。

◆府中第三中学校

☆平山こゆみさん

☆大平玲奈さん

日ごろから熱心にバスケットボールの練習に励み、第22回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

◆府中第四中学校

☆合唱部

日ごろから熱心に合唱の練習に励み、NHK全国学校音楽コンクール関東甲信越大会で入賞するなど十分にその力を発揮した。

☆松本麻奈さん

日ごろから熱心に水泳の練習に励み、第33回関東中学校水泳競技大会に出場し優秀な成績を

収めるなど十分にその力を発揮した。

◆府中第五中学校

☆松本茉美子さん

日ごろから生徒会活動に熱心に取り組む、その経験を中学生の主張東京都大会で発表して多くの人が力を力づけ高い評価を受けた。

◆府中第六中学校

☆吉良拓真さん

日ごろから熱心に陸上競技の練習に励み、第36回全日本中学校陸上競技選手権大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

◆府中第九中学校

☆田中耕平さん

日ごろから熱心に野球の練習に励み、第40回日本少年野球選手権大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

◆浅間中学校

☆井坂有佑さん

日ごろから熱心に水泳の練習に励み、第49回全国中学校水泳競技大会に出場するなど十分にその力を発揮した。

表彰の後、来賓を代表して、堀米孝尚府中市立小・中学校長会会長より祝辞があった。

府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

「ことば」力を高める

書く力を伸ばす指導の工夫

前府中市立府中第九小学校

研究主任 萩原 農

1 研究主題と

主題設定の理由

本校では、平成20・21年度の2年間、府中市教育委員会研究協力校として、『ことば』力を高める書く力を伸ばす指導の工夫の主題のもと研究に取り組んだ。

本校の児童は、前年度までの研究によって、互いにかかわり合うことはできるようになってきたが、考えを深めたり、相手の考えを正確に理解したりしていくことに課題が残った。

そのような実態や、新学習指導要領の改訂を鑑みて、児童には、言葉を使って適切なコミュニケーションをしていく力、つまり言語コミュニケーション力を育てる必要があると結論づけた。本校ではその力を『ことば力』と呼ぶこととし、標記の主題を設定した。

『ことば』力を高めるためには、まず自分の思考を言葉で整

理し、文章化しなければいけない。そこで、その思考をまとめて文章化する手段として、『書く力』に注目した。書く力を伸ばせば、考えをまとめ発信することができる。そうすれば、言語コミュニケーション力は大きく伸びる。そう考え、副主題を設定して具体的な指導の工夫を研究することにした。

2 研究の実践

低学年、中学年、高学年、ふたば・まなび学級の四分科会で実践研究をおこなった。主として国語科の「書くこと」の領域において、児童の書く力を伸ばすために、授業展開、支援・援助、教具等の工夫を研究した。

(1) 研究を進めるにあたってまず、分科会ごとに実態を出し合い、それに基づいて目指す児童の姿を設定した。次に目指す児童の姿から、具体的な手だてを考え実践・検証して

ウェビングマップを

活用した課題設定



いく手順を進めた。

(2) 書く活動では、次のような手だてを工夫した。

課題をつかむ場面では、身近な題材を選んだり、体験を通して思いや考えを膨らませたりした。

構成する場面では、教師の例示を活用させたり、短冊型の構成カードを使って考えさせたりした。

記述・推こうの場面では、「すいこうカード」を使って見直す力を付けさせるとともに、自分自身で読み直すだけでなく、友達と交換して読むなど交流の場を設定し、友達からの助言も参考にさせた。

授業以外でも次のような取り組みをした。

組みをした。

(3) 6月、10月に、「表現すること・書くこと」について調査し、分析・考察を通して、児童の意識などの変容を明らかにして研究に生かした。

(4) 言語事項の指導の補完として、朝のスキルトイムの時間を「ことばのじかん」とし、言葉に関するスキルアップを図った。年度当初、学年ごとに30回分の年間計画を立て、それに沿って実践を続けた。

(5) 以前から取り組んできた短歌を『ことば』力の向上に役立てるため、行事や学習、季節にに応じて短歌を書く機会を多く設け、校内に掲示したり放送で紹介したりした。そうする中で書く意欲を高め、言葉を選んで短い文を書く経験を多くさせた。

3 研究発表

平成22年2月9日、2年間の研究の成果を発表するため、授業公開及び研究発表会をおこなった。当日は、ふたば学級を含めた各学級で国語科の授業をおこなった。

体育館での発表後、日本教育大学院大学客員教授 北川達夫先生に、「多様化する社会に求められる言語力」の演題でご講演いただいた。

4 成果と課題

○ウェビングマップや学習シート、身近な体験、そして、相手意識・目的意識をもつことで、課題を把握しやすくなり、意欲的に文章を書くことができるようになった。

○構成、推こう、記述等での指導の工夫だけでなく、あらゆる場面で交流をすることで、学び合いが生まれ、ひいては自分自身の書く力も高まった。

●「ことばのじかん」を含め、学年間の系統性をもう一度検討し、今後も継続した指導を進めながら「ことば」力を育てていきたい。



個に応じた学習シートを使った指導



府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

「連携を通じた『学校力』の向上」

～特別支援教育の視点に基づく授業改善～

前府中市立府中第二中学校  
研究推進主任 堀田 智暁

1 はじめに

本研究は、継続研究である。引き続き『連携を通じた「学校力」の向上』を研究主題、「特別支援教育の視点に基づいた授業改善」を研究テーマとし、全教科・全教員で取り組んだ。

このテーマは、前回の研究の課題であった「個に配慮した指導」などと、本校の生活指導上の課題解決に結びつく方向性を包括したものである。

「特別な支援が必要な生徒の指導方法を共有し、個の特性に配慮した指導・支援を行うこと」によって、全生徒の学習意欲を高め、誰もがわかる授業へと改善することができ、生徒の確かな学力を育成することができるとの仮説をたて「授業のユニバーサルデザイン化」を目指して、主として授業改善に取り組んできた。

2 研究発表の概要

平成22年2月5日、穏やかな天候にも恵まれ、本校の研究発表会が行われた。

当日は、5校時に授業参観があり、発表に先立ち、本校の研究テーマである「特別支援教育の視点に基づいた」授業を見ていただいた。

発表会は、東京家政大学准教授 半澤嘉博先生を講師としてお招きした。また、本市教育委員会の先生方を始めとする来賓の皆さまや、本市小中学校の校長先生方、各地区の教員の皆さまなど、多くの方々に参加していただくことができた。

研究発表は、全68枚のスライドで構成されたパワーポイントを活用して行った。主な発表内容は次の通りである。

- (1) 研究の概要と内容について
- (2) 本校の連携事業について
- (数学科のTTの取り組み、理

一年 音楽



科の理科支援員の活用、小・中交流会の取り組み・生徒指導協力員の活用)

(3) 成果と課題について

その後、講師の半澤先生より、「特別支援教育の視点に基づいた指導の工夫」の演題で講演をいただいた。主な内容は次のとおりである。

- ① 本日の公開授業から
- ② 特別支援教育の視点
- ③ 授業改善のポイント
- ④ 学校への期待

特別支援教育に精通されている半澤先生のお話は、一つ一つが実践と経験に裏付けされている。本研究に対していただいたお褒めの言葉も、本校の財産として今後に生かしたい。

3 研究の成果と課題

平成20年度の「特別支援教育の理解」と「教室環境の整備」の取り組みにより、教師が本研究を進めるための基礎的な力身に付けることができた。

そして、それらの基礎的な力を基に、平成21年度は、「授業改善」に取り組み、次のような成果を上げることができた。

○ 学習のめあてを提示↓学習内容をイメージさせ、学習に対する不安を減少させることができた。

○ 教材の工夫↓学習意欲を向上させ、自らの力で問題を解決しようとする態度を育成することができた。

○ 指導方法の工夫↓学習内容を定着させ、学習内容の理解を促進することができ、思考を深化させたり、達成感を味わわせることができた。また、互いに教え合う活動で、自らの考えを発表しやすい環境をつくることができた。

一方、既習事項と関連付け、考えを深めせることや、表現する力などを育成するために、教師のさらなる授業力の向上が課題として上げられた。

4 おわりに

本研究は、平成19年度から本

格化した特別支援教育の推進を通常学級における授業改善に広げての研究となった。そして、研究のための研究ではなく、目の前の子供たちの力をさらに伸ばしていくためにはどうしたらよいか、また、「特別支援教育」とは決して「特別」なものではなく、一人一人の生徒を大事にする視点から成り立っていると考え実践してきた。

今後も生徒に確かな学力を身に付けるために授業改善を推進するとともに、本研究を通して見えてきた新たな課題を解決すべく、多くの方々と連携してさらなる「学校力」の向上に努めていく所存である。「継続は力なり」である。



講演 半澤嘉博先生

特別支援相談室② 「巡回相談」

21年度の活動を振り返って

巡回相談員 本間 加恵子



いつも ありがとうございます

【はじめに】

授業中、手遊びをしていることの多かったAくん。最近、挙手が増えてきた。一学期の授業観察で一斉指示にはほとんど反応しないが紙芝居をじっとみつめていた様子から、耳よりも目

表：平成21年度相談件数

|   | 主 訴 分 類    | 件 数          |
|---|------------|--------------|
| 1 | 発達障害に関する内容 | 2384 (43.9%) |
| 2 | 性格・行動      | 1259 (23.2%) |
| 3 | 情緒不安定      | 431 (7.9%)   |
| 4 | 不登校・登校しぶり  | 364 (6.7%)   |
| 5 | 学習・進学      | 241 (4.4%)   |
| 6 | その他        | 756 (13.9%)  |
| 計 |            | 5435(100.0%) |

継続)

からの情報が入りやすいのではないか、と思われた。教師は相談員の見立てを聞き、Aくんの座席や注意をひくような視覚教材を工夫してくださったのである。いわゆる発達障害のある子にとって、学齢期にその苦しさへのサポートを環境側からどれほど受けられるかが、その後の適応の鍵をにぎっている。

府中市では、特別支援教育充実のため、平成18年度から心理士による巡回相談を開始した。4年目となる昨年度は、心理士11名体制で市内小学校を担当、月2〜3回訪問し相談活動を行った。(スクールカウンセラー配置校は、定期的な情報交換を

【昨年度の活動について】

21年度の主な相談件数を表に示した。巡回相談では発達障害に関する内容だけでなく、不登校や情緒不安定などの心理的な問題も含め子供の様々な問題に関わっている。昨年度は次のような活動を行った。

① 授業観察

保護者や教師からの依頼を受けて、学校での様子を観察した。子供の困り感を中心に、場面に現れる特徴を読み取り、周囲との関係性も含めて、情報を収集し、継続的な観察では、成長や変化を把握でき児童理解をさらに深めることができた。

② 教師との相談

教師が日々心配を感じている点や、相談員観察時の様子など、情報交換をしながら子供の状態を理解し、かかわりの手だてを考察した。また、個別の相談だけでなく、子供にかかわる複数の教師と、事例検討という形で学校での支援体制を検討したこともあった。

③ 保護者相談

学校の方針にあわせて、保護者向けの案内配布や学校だよりへの掲載、教師の紹介などにより、保護者からの相談に対応した。保護者にとって身近な学校での相談は比較利用しやすいようで、子育ての不安について

の相談などニーズは高く、21年度は300件近くに上った。子供の学校での様子を、家庭での様子と比較することで、両面から理解を深め、それぞれの場での必要な支援を保護者とともに考える時間でもあった。内容により、教育相談や就学相談、医療機関などにつなげた事例も多かった。また必要に応じて発達検査を実施、家庭や学校でのかわりに生かしていただいた。

④ 校内委員会等への参加

校内の特別支援会議や生活指導全体会など、多くの児童理解の会に参加させていただき、活動報告を行ったり、今後の方針を教師とともに検討したりした。

また、校内委員会や家庭教育

学級等での講演の機会もいただいた。21年度のテーマは次のとおりである。

〔教師対象〕

『保護者との協同関係を築く』

『学級で使えるSST(ソーシャルスキルトレーニング)』

『府中市の児童支援体制』

『WISC-IIIの理論と活用』

『個別指導計画書について』

〔保護者対象〕

『お友達とのトラブルQ&A』

『親子のコミュニケーション』

⑤ 学校外との連携

教育センターで継続的なカウンセリング等を行う教育相談室

は、相談員が兼務していることもあり、日常的に情報交換を行うことで、双方で子供の実態にあわせた対応につなげることができた。また、子供に適した学習環境を検討するにあたっては、特別支援相談室内で就学相談や巡回指導と打ち合わせを行った。学校現場では、虐待疑い等家庭の問題を背景にもつ子供たちにも出会う。スクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センターや児童相談所と情報を共有、関係者会議に参加し、チームアプローチを心がけた。医療面のケアを必要とする子供について、地域の医療機関と連携する事例も増えてきた。

【おわりに】

子供たちが個々の力を発揮し、世界を豊かに吸収して、成長していく様は、いつも輝きに満ちている。そのささやかだが確かな奇跡に立ち合わせていただこうになって数年経った。伸び行く芽に必要なのは、その場その場の手入れだけでなく、先を見通し、土壌、肥料、日当たりなど様々な側面から環境を整えていくことである。

今後、子供たちの今を未来につなげる視点を大切に保護者と教師と協力し、個に応じた環境づくりに励んでいきたい。

特別支援相談室③「電話教育相談」

# 「平成21年度の 電話相談を振り返って」

電話教育談員  
岡田 ミイ子

1 はじめに  
電話教育相談は、未就学児から高校生までの教育・生活全般に関する相談を受けている。加えて府中市いじめ110番、来室相談の申し込み受付業務を担っている。

「どこに相談すればよいのか分からなかったので、とりあえずここにかけました。よかったですよか？」との言葉から始まる相談がよくある。また、「今、携帯でかけているのですが…」と後ろで車の走る音が聞こえる場所からの電話もある。

平成21年度もこのように、迷いながら、不安な思いで相談室にアクセスしてくださった相談者のここを極力大切にしながら相談を受けてきた。

2 21年度の相談の概況  
相談件数は3月16日現在で、516件である。平成19年度479件、20年度458件と過去2年間に比べ、増となった。特に増えたのは、主訴5項目のうち「⑤その他」である。内容としては、「しつけ・育て方」「教師との関係」等、教育相談に関係する主訴が主であるが、子供の相談以外の問い合わせも増えた。これは、「教育相談」として電話番号が紹介されているが、市民の様々な相談窓口としての役割も出てきているのではないかと推測する。

☆ 相談者  
今年度も母親からの電話が最も多く、409件、79%であった。子育ての大部分が母親のみの肩に掛かっていることが分かる。父親からは、昨年より10件増えて30件、6%である。85%が両親からの相談ということになる。話を深く聞いていくうちに、母親自身の生き方についての迷いや悩みを強く訴えられることがあった。電話をかけることによって不安が少しでも減少

表1 主訴別件数 (平成22年3月16日現在)

| 主訴              | 対象 | 就学前 | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 他  | 合計  |
|-----------------|----|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 性格・行動(不登校・いじめ等) |    | 2   | 74  | 71  | 5   | 1  | 153 |
| 知能・学業(発達障害等)    |    | 8   | 44  | 12  | 0   | 0  | 64  |
| 進路(転校・進路等)      |    | 1   | 10  | 12  | 9   | 3  | 35  |
| 精神・身体(言葉・経性習癖)  |    | 7   | 14  | 2   | 0   | 0  | 23  |
| その他(学校・教師・育て方)  |    | 13  | 124 | 45  | 4   | 55 | 241 |
| 合計              |    | 31  | 266 | 142 | 18  | 59 | 516 |

表2 相談件数の多い主訴の内訳(上位6位) (平成22年3月16日現在)

| 主訴        | 対象 | 就学前 | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 他  | 合計 |
|-----------|----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 不登校とその傾向  |    | 1   | 36  | 46  | 3   | 0  | 86 |
| しつけ・育て方   |    | 5   | 48  | 9   | 0   | 10 | 72 |
| 発達障害の疑い   |    | 5   | 34  | 11  | 0   | 0  | 50 |
| 相談の問い合わせ  |    | 3   | 16  | 6   | 1   | 5  | 31 |
| 学校・教師との関係 |    | 1   | 17  | 4   | 1   | 0  | 23 |
| いじめ       |    | 0   | 10  | 12  | 1   | 0  | 23 |

☆ 相談対象者  
表1に示すとおり、対象者は、小学生52%、中学生28%、就学前6%、高校生3%の順であった。昨年までと同様の傾向である。さらに、学年別の傾向を調べると、小学生では三年生、五年生が各28件、中学生では三年生が27件で少数であった。この

また、福祉、子育て支援などの外部機関からの問い合わせが何件かあった。機能的連携の重要性を認識し、相談に臨みたい。

☆ 相談時間  
昨年同様、7割弱の相談が20分以内で終わっている。しかし、1時間以上の件数も21件あった。

☆ 相談件数の多い主訴  
表2は相談件数の多い主訴(小項目)の対象者別状況を表

3 おわりに  
「神様はだれも隅っこにいかせないために地球を丸くしたんだよ」という言葉に出会った。これからも、一人一人の子供が隅っこに追いやられることなく、自分らしく生きるための一助を担う相談でありたい。

【不登校】  
ここ3年間は増加傾向にあったが、今年度は若干、減少している。しかしながら、前年度と比べ、小学生からの相談は増加しており、このうち、特に、低学年の増加が目立った。

【しつけ・育て方】  
小学生の相談が多い。反抗期を迎えた子供への接し方、学習に関すること、友達のかかわり方、兄弟関係についてなど、様々な悩みが訴えられた。

【発達障害の疑い】  
相談件数は50件だった。小学生は、昨年とほぼ同じであったが、中学生が6件から11件へと増加した。「小学校の時からもしかしてと、不安を抱いていたのですが…」との声が象徴するよう、発達障害に対する理解が深まったため、相談に踏み切られる方が多くなったと考えられる。



新任の指導室長、指導主事・着任のあいさつ



副参事(兼)指導室長  
小 椋 孝

4月1日の朝、3年振りの区  
市町村教育委員会勤務となつた  
うれしさを胸に府中駅に降り立  
ちましたが、けやき並木の中を  
歩き清冽な空気に触れるうちに  
身が引き締まる思いを感じ、改  
めて府中市での職責の重さとも  
もに大きなやり甲斐を感じまし  
た。1日も早く府中市の学校、  
子供たちのよさをつかみ、より  
よく伸長していけるよう頑張っ  
てまいりたいと存じます。

平成20年度に「府中市学校教  
育プラン21」の充実・完成に向  
けた第3期事業実施計画が策定  
され、再構築された重点課題、  
主要課題の実現に向け、家庭、  
地域との協力体制を深化させな  
がら、学校と教育委員会が今ま  
で以上に緊密に連携し、歩調を  
合わせて取り組んでいくことが  
求められています。指導室とい  
たしましても、常に広い視野を  
もちながら、しっかりと地に足  
を付け、一步一步着実に進んで  
まいりたいと考えていますので  
よろしく願います。



指導主事  
小野満 賢

この度着任いたしました小野  
満です。活気にあふれ勢いのあ  
る街並みと、けやき並木が見事  
に融合している駅前通りを歩く  
度に府中市の懐の深さを感じま  
す。また、色々な施設の前にあ  
るモニメントが一切いたずら  
されずに凛として立っているこ  
とも感激しました。この府中  
に暮らす方々のために働けるこ  
との喜びを強く感じております。

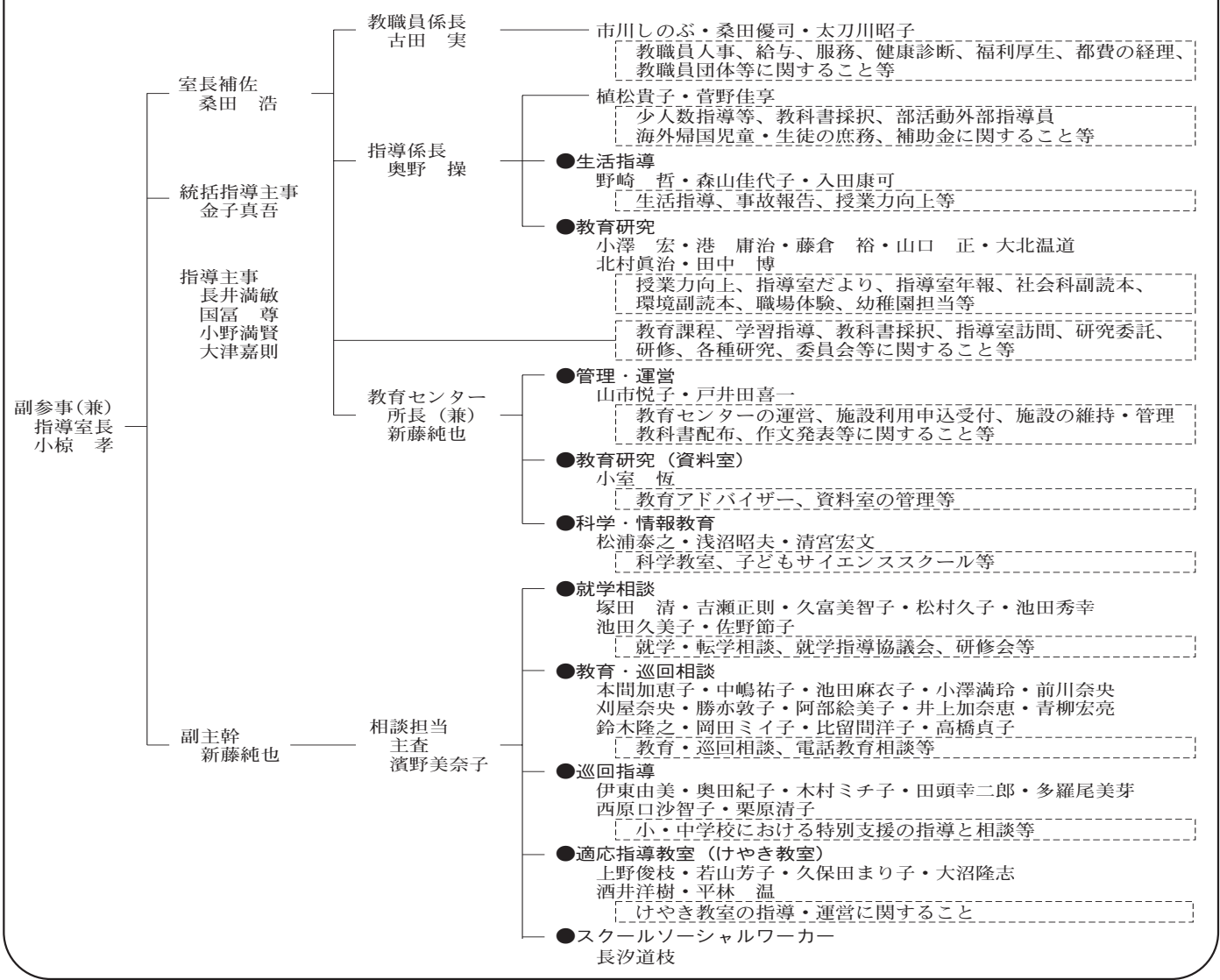


指導主事  
大津 嘉則

このたび、着任いたしました  
大津嘉則です。入学式や学校を  
訪問した折に、児童・生徒が伸  
び伸びと元気に過ごしている様  
子を見て、温かく、一人一人を  
大切にしたいいねいな教育が行  
われていることを実感いたしま  
した。「誇りを持てるふるさと府  
中を創り、世界に活躍する府  
中っ子を育てる」の基本理念を  
実現するために、全力を尽くし  
頑張つてまいります。

平成 22 年度 指導室の組織及び業務

4月1日現在



道徳授業地区公開講座 (一学期実施校)

- 保護者・市民の参加のもとに 学校・家庭・地域の連携による 道徳教育の充実を図りましょう。
◆5月15日(土) 8時30分〜
☆府中第六小学校 学校公開日
◆5月29日(土) 8時40分〜
☆府中第八小学校 学校公開日・講演会
◆6月5日(土) 10時35分〜
☆住吉小学校 学校公開日・座談会
◆6月19日(土)
☆府中第三小学校 8時15分〜 学校公開日・講演会
☆府中第三中学校 9時40分〜 学校公開日・座談会
◆6月26日(土)
☆府中第五小学校 13時40分〜 学校公開日・講演会
☆本宿小学校 10時35分〜 学校公開日・講演会
☆四谷小学校 8時40分〜 学校公開日・講演会
◆7月3日(土) 9時50分〜
☆府中第四中学校 学校公開日・講演会
※当日の内容等の詳細については、各校に問い合わせてください。



Table with 4 columns: Date, Day, Venue, and Content. It lists various events from May 6th to May 31st, including seminars, conferences, and training sessions.



インフルエンザの予防接種を受けたときのことである。看護士さんが「少しちくっとしますよ」と言っていて私に注射をする。
終えると「大丈夫ですか?」「いい気分はいかがですか?」と言葉をかけてくれた。こちらが温かくなった。
人間の生命を扱う医療にとって技術の進歩が重要なのは言うまでもないが、それ以上に言葉の重要性が増していると医師の鎌田氏は指摘する。
(『言葉で治療する』鎌田 實 朝日新聞社)
「人間を相手にするからには、『言葉を扱う職業』との認識に立て」と鎌田氏は述べる。患者側が薬や治療の説明を求めても、「素人にはわからない」と不愉快な顔をする医師がすれば、そうした言動が患者に不信や不安を抱かせてしまうことにつながる。「丁寧で心をちょっと支えるような言葉が必要」「生きる力を注ぐ言葉が大事」と鎌田氏は、訴えている。

言葉の力

医療の現場だけではない。教育もまた、言葉は、子供の意欲をはぐくみ、保護者や地域の方との信頼関係を築くための橋渡しだ。
子供は、多くの可能性を備えている。その可能性を引き出すエンジンとなるのが自信である。自分は必ずできるという確信と、子供にその自信と確信を与えるのが、心からのほめ言葉であり、温かい励ましである。子供の心をとらえる誠実な声と言葉が大切である。「心は工(たくみ)になる絵師の如し」というように心の中は他者の言動や環境により常に化する。教師や親の細やかな心づかい、丁寧な表現ほっとさせる一言が、子供の心を明るくさせ、困難に挑戦して努力する意欲をはぐくむことになる。
一つの言葉は、一つの心をもっている。だからこそ言葉を大切にすることは、心を大切にすることに通じる。子供の教育に携わるものとして、心したいことである。
(指導主事 国富 尊)

学びの窓

児童虐待の防止にご協力を

子育て支援課 主幹 栢木あさ子
児童虐待による死亡ニュースが後を絶たない。児童虐待の問題に取り組むことは子どもに関わる私達の緊急の課題である。
児童虐待には複雑な背景があり、家族が抱える問題や病理が一番弱い存在である子どもに方向けられて起こる。核家族化と都市化の下で、育児不安やストレスが虐待に結びつくことも多い。又、保護者の精神的な疾患や子どもの発達上の心配など困難な事例が増加している。
子ども家庭支援センター「たち」では小・中学校の先生方や保健センター、児童相談所など関係機関と緊密な連携を取りながら、子どもの安全と子どもの最善の利益を最優先にして支援を行っている。新規相談は毎年700件程あり、虐待や養育の困難を訴える相談も多い。「たち」開設以来相談を継続している家族もあり息の長い支援が必要である。
児童虐待を防止するためには、子どもの小さなサインを見逃さないで、早期の支援につなげていくことが大切である。虐待が疑われる場合は、早急なご連絡を是非お願いしたい。